レッスン：PYR 59

テーマ：Lifeの本質を体験する

PYR59/KE07 No.607.01.10

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、そして火の子供達よ｡私たちは常に主、絶対、主の聖性によって包まれています。

　レッスンの中で現在のパーソナリティーは真のセルフ(自己）の影以外のなにものでもないと分析してきました；そして真のセルフとはLifeのことです。そしてLifeはどこにあるのでしょうか、なぜならそれを見つけたと言っても、Lifeはどんな枠の中にも入れることはできません；しかし、肉体あるいは現在のパーソナリティーに関係させた時、Lifeはどこにあるのでしょうか？多くのレッスンのなかで、Lifeのスパーク（＊火花）は現在のパーソナリティーの内側にあり、それは永遠のアトムの中にある、と述べました。そして永遠のアトムは乗り物であり、各そして全ての現在のパーソナリティーを転生させます。

　さて、現在のパーソナリティーはLifeのスパークの影ですが、現在のパーソナリティーは様々な可能性のサイクルのなかで多くの体験を重ねる、と言いました。そして最終的に影という状態からスパークの真の現れになるでしょう。それまでは影なのです。

　それでは“影”とは何を意味するのでしょうか？その意味は、その現れはLifeの本質を完全には現していないということです。現れているものとして、それはLifeであると言うことはできません。それはLifeによって活性化されていますが、しかしインナーセルフを活性化させるのがLifeなのです。

　さて、Lifeの本質を現すことに向けて、どのように進んでいくのでしょうか？現在のパーソナリティーは多くの経験を重ねますが、しかし私たちは可能性の様々なサイクルが提供しているものを大いに利用することによって、そのプロセスを加速させることができます。

　それらの可能性（＊capability)とは何でしょうか？それらはそれらの可能性のなかにある様々な法則です…現在のパーソナリティーの大きなサイクルに属する諸法則です；そしてそれらの法則にアプローチすることが可能になるためには（そしてそれらの法則は初め、その現れがLifeの本質を現さないようにしました）。それらの同じ法則が今は現すのを助けようとしているのですが、どのようにそこにアプローチしたらよいでしょうか？レッスンの中で述べましたが、現在のパーソナリティーにとって可能なやり方でアプローチする必要があり、つまりそれらの法則を象徴するシンボルを築くのです、そして私たちには様々なピラミッドがあります：四面、三面、五面；そして一面ピラミッドがそれらの結果です。

　そうすることによって、現在のパーソナリティーはLifeそれ自体からより多くを現すようになります。なぜでしょうか？なぜなら、Lifeの本質からの“何か”を意味する三面ピラミッドがあるからです。そして現在のパーソナリティーが三面ピラミッド（それはあるサイクルに属していますが）をマスターするとき、それはその現在のパーソナリティーがLifeからより多くを現すようになります、しかしLifeの本質のすべてではありません…三面ピラミッドがそのサイクルのなかで特定しているものだけですが。

　さて4番目のサイクルに関しては、それをマスターすることは、このサイクル内にある3面ピラミッドは何であれ大きなサイクルが現在のパーソナリティーに提供しているものを提供していることを意味します。つまり現在のパーソナリティーが永遠のパーソナリティーの本質を完全に表現する、ということです。永遠のパーソナリティーは、Lifeの小さなスパークであり、それは現在のパーソナリティーの内側にあり、以前に現在のパーソナリティーを活性化させました。

Page2

 さて、Lifeの本質を完全にと言う時、それは魂のセルフエピグノシスが存在の諸世界の中で現している本質を意味するものではなく、実存の諸世界の中で現すことが“可能な”Lifeの本質という意味です。ここには違いがあります、なぜなら存在の諸世界における現れとしてのLifeの本質はコミュニケーションのために同化を使用していますが、実存の諸世界におけるLifeの本質は同調を使うからです。これが現在のパーソナリティーを活性化するLifeのスパークが提供するものです。

　さて、Lifeのスパークが高次ノエティカル体と一つになる時、その最後の現在のパーソナリティーのなかで実存の諸世界と存在の諸世界の間の境界を通過することができ、自動的に同調ではなく同化を現すようになります。実際、何かを加えるということはなく、それはLifeの本質のなかにあります。しかし、それは実在の諸世界のなかでは表現されないのです。この点を明確に理解してください。

　以前のレッスンで、現在のパーソナリティーを活性化するLifeのスパークは魂のセルフエピグノシスであると言いました。しかし、そのスパークが実存の諸世界にある時には、違いがあります。

Q：肉体の細胞にはそのパーソナリティーが体験したもの、そのパーソナリティーの歴史全体が記録されていると言われますが、それは永遠のアトムあるいはその特定の転生の記録なのでしょうか？

K：何であれ細胞に記録されているもの、実際にはそれはまた潜在意識に記録されています、そうです；そして何であれ潜在意識に記録されているものは自動的に汎宇宙的潜在意識にも記録されます。

Q：その場合、アークエンジェルによる肉体の築き＆誕生の体験と創造の母との間には関係があるのですか？

K：肉体は特定の現在のパーソナリティーのために築かれ、その特定の現在のパーソナリティーは過去の全ての転生の結果であり、現在のパーソナリティーにはそれまでの過去の全ての経験の結果を変えたり、加えたりすることができます；つまり、原因結果の法則がその新たな現在のパーソナリティーがその新たな転生において経験するように設定したものを、キャンセルすることもできるということです。それを変更し、また加えることが可能だということです。過去の全ての転生と経験の結果として、体はそのように築かれ、そしてその新たな現在のパーソナリティーに奉仕するのです。

Q：それでは次の質問です：Lifeのスパークと永遠のアトムとの違いは何ですか？私の理解では、私の身体の全ての細胞には、それが身体のどの部分であろうとも同じものが記録されているのでは、と思うのですが。

Ｋ：肉体は一時的なものであり、何年も続くものではありません、そこにどれだけ多くのことが記録されていようとも、例えば何年もあり続けるものではありません。なぜなら、肉体は再び戻ってくるものではないからです。

Ｑ：それでは私の体を活性化するスパークはどこにあるのですか？

Ｋ：体を活性化するスパークは永遠のアトムの中にあります。それでは永遠のアトムはどこにあるのでしょうか？それはサイコノエティカル体のなかのあらゆるところにあります、肉体にあるのではありません。なぜなら、その永遠のアトムはLifeのスパークと共に現在のパーソナリティーを活性化するからです。そして現在のパーソナリティーは肉体の健康に対して責任があります。

　実存する、生きる手段としての肉体は聖霊の働き、様々なアークエンジェルのオーダーに依存しています；しかし、現在のパーソナリティーはその仕事の邪魔をし、様々な病気や問題をその肉体にもたらします。

　もし肉体が完全に聖霊の手に委ねられるなら（＊現在のパーソナリティーが邪魔しなければ）肉体は常に良い健康状態にあることでしょう。しかし、それが目的ではありません。目的は肉体がそれを使用する現在のパーソナリティーに奉仕することです。“奉仕する”という意味は、現在のパーソナリティーがいろいろな経験をして、最終的に現在のパーソナリティーを活性化するLifeの本質、Lifeのスパークを現すことです。ですから、永遠のアトムは実際、サイコノエティカル体のあらゆる所にあると言えます。

Page3

Q :永遠のアトムにはそれ自身のヒポスタシスがあるのですか？

K：あります、そしてサイコノエティカル体が完全に再形成された時には自動的に一つになります。

Q：そのヒポスタシスは人間のヒポスタシスのようですか？

K：初めは違います。初めはそれはエネルギーの塊のようであり、特定の形を持ちません、それはサイコノエティカル体のあらゆるところにあります。しかし、それはLifeのスパークがあるエネルギーの塊の中にあります。それは完全に再形成されたサイコノエティカル体と一つになります。それゆえに、潜在意識のマインドがサイコノエティカル体であるか否かと尋ねるなら、答えはイエスでありまたノーでもあるのです。

　もう一つの質問で、潜在意識は永遠のアトムなのか、というものがあります。ここでも答えはイエスでありノーです。また、名前のある現在のパーソナリティーが前にも存在したかどうかという質問に対する答えはノーです。人々は、現在のパーソナリティーとして自分は前にも存在したと言いますが、実際には今のような現在のパーソナリティーとしては前には存在していなかったのです。自己実現した人だけが、自分は前にも存在したと言うことができるのです。なぜなら、その時初めて永遠のアトムと完全に再形成されたサイコノエティカル体が一つになるからです；その時にはそれまでの全ての転生を活性化する永遠のアトムが“確かに自分は前に存在した”と言えるのです。

Q：人々が死ぬのが怖いと言う時、その恐れを現しているのは現在のパーソナリティーですか？

K：勿論です、しかし現在のパーソナリティーは肉体の死という現象においては死にません。その現在のパーソナリティーはサイコノエティカル界に入り、その体験は（＊生きていた時の体験）永遠のアトムに加えられ、後の転生において表現されます。その現在のパーソナリティーは新たに転生するまでサイコノエティカル界に留まります。

　しかし、その“特定の”現在のパーソナリティーは動き、活動として汎宇宙的な記憶の中に存在するでしょう。ですから、いつでもあなたが以前の転生の活動、動きを見たいと思えば、それを見て、体験することができます。

　しかし、あなたの永遠のアトムによって創造された動き、活動を誰かが見たい時には、その人が自分自身の動き、活動を見ることができる必要があります。ですから、もし誰かがあなたに、“あなたは前にも生きていて、あなたの永遠のアトムは過去の転生を活性化し、それはこれこれこのような人だった”などと話すのに耳を傾けるべきではありません。

　そのようなテクニカルな手段を通じて潜在意識の中に入る人は、あなたが過去生で誰々として生きていた、などと特定して言うことはできません。いわゆるスピリチュアルナな人と言われる人で (つまり本当の意味での神秘家ではなく）、スピリチュアルな人達の多くは時に過去生で自分は誰々だったと主張しますが、そういうことはあり得ません。

　人は自己実現に到達していない限り、本当に過去生を見ることはできません。そしてもしその人が自己実現に到達しているなら、過去を思い出さないという法則に逆らうようなことはしないでしょう…ディバインに奉仕するための特定の理由がない限りは。

　Q：なぜ、人々はそのようなことを言うのですか？

K：エゴイズムです。自分には能力があるという；彼等は自分のエゴにエサを与えているのです。時には、いつも嘘をついている人々は、その嘘が本当だと自分で信じてしまうこともあります。

Q：2番目のサイクルの終わり頃、3番目のサイクルの初め頃に大きなエゴと小さなエゴとの戦いがある、と理解していいでしょうか？

K：そうです、より小さなエゴとより大きなエゴとの間で大きな衝突があります。なぜなら、より小さな方のエゴはそのパーソナリティーをできるなら地のエレメントの中に保持しておきたいからです。それは生き残るための戦いです。

　なぜなら、2番目のサイクルを去った後、そのパーソナリティーはより意識的に生きるようになり、いわゆる意識的意識のセルフエピグノシスを現し、そして徐々にそのパーソナリティーは何が真の価値であり、何がそうでないかを認識するようになり、つまり何が上向きで何が下向きかに気づきます。現在のパーソナリティーはより意識的になり始め、徐々にゆっくりと真の五感を使い始めるようになります。それゆえにその地点で2つの間に大きな戦いがあり、それは3番目のサイクルの初め頃でもある程度続きます。それは、その前のみならず、3番目のサイクルの初めにおいてもあり、そのために3番目のサイクルにおいても進化成長のプロセスが遅くなることがあります。

Q：それは精神的病気としてそうなることがありますか？

K：精神病は時には他人に経験を与えるためになる時もあれば、また進歩や努力を送らせるためになる場合さえあります。精神の病気になる理由をはっきり知ることは不可能です。

Q：2つのエゴ、それらは何ですか？それらには体があるのですか、ヒポスタシスがあるのですか？

K：いいえ、それは現在のパーソナリティーです、それが現在のパーソナリティー、二元性です。私たちには二元性があります。二元性の表現なしでは、自分が存在していることすら認識できません。

Q：あなたは2つの小さなエゴのより小さなエゴ、より大きなエゴと言いますが、一番大きな3番目のエゴもあるのですか？

K：3番目のエゴはLifeのスパークです。それは大きなエゴで、私たちの真のセルフです。ほとんどの哲学では1つの小さなエゴ及び1つの大きなエゴ、二元性について述べていますが、しかし大きな方はそれ自身を現していません。ですから、それは現在のパーソナリティーではありません。彼等は現在のパーソナリティーは二元性の結果であることを認識していません。2つの小さなエゴのなかのより小さなエゴがあって、現在のパーソナリティーを構成しています；そしてなによりも実際、２つは一つのステートにあり、徐々にゆっくりとそれらは離れていき、想念・思考あという現れがあるのです。最初は人類は動物のようなものであり、本能しか現しません、そして徐々に人類は二元性、思考・想念というものを現すようになったのです。

Q：それでは主に小さなエゴは良い行為を主張し、それで満足感を得ようとするのですか？

K：2つの小さなエゴのなかのより小さなエゴは所有、物質的な物を求めますが、しかしまた栄光を求め、他の人々が自分を崇拝してくれることを求めます。それを得るために盗んだり、他の人々を殺したり、または多くの嘘をついたりする必要があってもです。そして彼等は何であれ自分が行っていることは自分にとって良いことだと信じています。なぜなら、その結果、エネルギーを得ることができ、自分のエゴを満足させるからです。しかし、Lifeには二元性は必要ありません。レッスンで述べたように、高次ノエティカル体には一つの目的しかありません、Lifeの中心、Lifeの太陽、それは純粋なアガピを震動させ、輝かせます。それがLifeです。

Q：以前、しばしばノエティック体と言いましたが、今はノエティカル体、高次ノエティカル体について話します；しかしこのノエティック体はどこにあるのですか？

K：高次ノエティカル体はスーパーサブスタンスであり、ノエティック体もそうです。違いは、ノエティック体は同化ができ、一方高次ノエティカル体を使うLifeの現れは同調ができるということです。そして高次ノエティカル体はもはやサイコノエティカル体、つまり二元性とはつながっていないということです。ひとたびあなたの高次ノエティカル体がノエティック体へと変容すると、あなたはもはや実存の諸世界で、転生のサイクルの中で現在のパーソナリティーとして自分自身を現すことはできません。これが高次ノエティカル体とノエティック体との唯一の違いです。

Q：ノエティック体にはフォームがありますか？

K：はい、天人のフォームがあります。Lifeの本質を完全に現している全ての現れはこのフォームを使う必要があります。このフォームは実存の諸世界だけのものでなく、創造の諸世界のためのものでもあるのです

Q：それではそれは天人、人間のイデアのフォームとなります。しかしそれがどのようにして創造の元型、創造のセルとどのように関連するのですか？

K：創造の元型は骨組みであり、それは元型としての人間のイデアフォームを活性化させます。しかし同時にその骨組みは創造界全体にヒポスタシス（＊状態）を与える骨組みでもあるのです。そしてこの骨組みの中に創造界それ自体を束ねる他の全ての天上の法則があります。

Page5

 ノエティックとノエティカルの間の違いは明らかです：それらは両方ともマインドの高次の波動を使い、フォームに置いても違いはありません；違いは先ほど述べたように同化と同調だけです。

Q：それではそれらは2つの異なった体ですか？

K：ノー、それらは異なった体ではありません、高次ノエティカル体からノエティック体への変容が生じます。機能の違いがそこにはあります。しかし説明したように、もう一つの違いがあります。高次ノエティカル体は実存の諸世界に存在し、同時に完全に再形成されたサイコノエティカル体を使い、そして転生のサイクルに留まることができます。

 そしてまた、そうしないこともまた可能です。実存の諸世界に留まることによって、そして他の同胞の人間達の重荷を背負うことなく不可視のヘルパーとして奉仕することも。そして、前に説明しましたが、それは惑星全体が自己実現に到達し、その惑星における人間の体験が必要ではなくなる時です。その惑星における全ての現れは高次ノエティカル体だけを使い、そして物質化、非物質化の能力があり、どのようなフォームの物質化も可能であり、肉体における物質化も可能です。しかし、ノエティック体は存在の諸世界への移行し、同化を使い、境界を越えて再び実存の諸世界に戻ってくることはできません。

それらが違いです。

EREVNA PYR59/KE07 No.607.01.10